

施設紹介

滋賀医科大学「家庭医療学講座」の紹介

三ッ浪 健一

滋賀医科大学家庭医療学講座教授

はじめに

滋賀医科大学の学則が平成 20 年 1 月 9 日に改正され、医学部医学科臨床医学講座の一つとして家庭医療学講座が新設されました。開設に至る経緯と講座の理念・使命・行動計画・展望について紹介いたします。

講座開設の経緯

滋賀医科大学家庭医療学講座の母体である総合診療部が医学部附属病院中央診療施設の一つとして設置（省令化）されたのは平成 9 年 4 月で、平成 10 年 3 月に教授が着任し、平成 12 年度には現在の 4 人体制が確立しました。その総合診療部がこれまで 10 年間に、以下に述べる診療機能面、福祉・医療・保健連携促進面、および地域基盤型医学教育面において貢献してきた多くの価値ある実績が評価されて、家庭医療学講座の開設が認められたものです。

1) 附属病院診療における総合診療部の貢献

総合診療部では大学病院において「人間」そのものを見失わない全人的な医療を提供するために、心理・社会的要因が重要な患者、多疾患を持つ患者、受診科不明の診断困難例を積極的に診療してきました。全人的医療の推進のためには心療内科や漢方医学的なアプローチも重要であるため、平成 15 年 10 月からは心療内科専門外来、平成 18 年 10 月からは漢方外来を総合診療部外来の中に設置して、多数の患者の需要に応じています。また、総合診療部が中心となり、平成 14 年 4 月に地域医療連携室を開設し、同 7 月から運用を開始したところ、その利用数は年々増加の一途をた

どり、平成 16 年 4 月に地域医療連携部に昇格しました。

このように、総合診療部は、患者中心で、共感できる人間関係の維持・強化をはかり、健康問題の心理・社会的アプローチを重視する地域包括プライマリケアを目指した診療を行い、このような領域を独自の専門性としてとらえる家庭医療学 family medicine の教育・研究の素地を築きました。

2) 滋賀医科大学の地域貢献特別支援事業

文部科学省は平成 14 年度に、国立大学の地域貢献に際して特に優れた取組みを重点的に支援する「地域貢献特別支援事業」を予算措置しました。この公募に際し、総合診療部が中心となって、保健・医療・福祉の連携によるそれらの充実を目指して、滋賀医科大学医学部、龍谷大学社会学部および滋賀県健康福祉部による 4 つの事業（障害者理解促進事業、痴呆性高齢者介護向上促進事業、虐待家庭内暴力対策ネットワーク事業、医療福祉教育研究センター事業）を提案したところ、これが採択されました（平成 14～16 年度）。これらの事業を推進する中心となるだけでなく、関連する異職種人材間の連携の要となり、多職種の関連分野に明るい総合的で学際的な人材を育てることを目的とする医療福祉教育研究センターが平成 14 年 11 月、滋賀医科大学に創設されたことは極めて大きな成果でありました。

3) 産学連携によるプライマリケア医学教育

平成 16 年度に文部科学省が募集した現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 Good Practice：現代 GP）に、総合診療部から、テーマ名「人材交流による産学連携教育」、取組名称「産

施設紹介

学連携によるプライマリケア医学教育」で応募したところ採択されました（平成 16～17 年度）。この取組は、滋賀県医師会所属の約 700 の診療所のうち 98 施設の協力を得て、極めて順調に進行しました。その結果、医学生 of プライマリケアを理解するための行動目標達成率の有意な改善が見られたのみならず、協力診療所医師の学生実習受入後における医学生教育に対する意識の好転が認められ、地域立脚型医学教育の推進にとって大変好ましい結果が得られました。

4) 一般市民参加型全人的医療教育プログラム

平成 17 年度に文部科学省が募集した「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム（医療人 G P : 医療人 Good Practice）」のテーマ「全人的医療を実現できる医師・歯科医師の養成」に、総合診療部から教育プログラム名称「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」で応募したところ、選定されました（平成 17～19 年度）。一般市民直接参加型の三つの医学教育プロジェクト、6 年間一貫患者訪問実習、全学年一般市民参加型面接医療実習、全人的医療・学年縦断グループ能動学習と市民・学生参加シンポジウムが、実際に全人的医療を実現できる医師の養成に有用かについてのグループ討論を最終年度（平成 19 年度）の第 5 学年と第 3 学年の全学生について実施したところ、具体的な方法については改善すべき点が多数あるが、その有用性については大部分の学生が同意しました。

「家庭医療学講座」の理念、使命、行動計画および展望

〈理念〉

家庭医療学講座は、地域全体の広がりの中で、疾病臓器・患者の性別・年齢・その他医学的技能の専門性にとらわれず、患者の抱える問題の大部分に責任を持って対応し、保健・医療・福祉・介護の各分野と連携・協調し、個人のみならずその家族および生活する地域を視野に入れた全人的医

療がくまなく提供されることを目指し、そのために必要な良質の医療人育成と質の高い研究を行う。

〈使命〉

- 1) 全人的医療に堪能な良質の家庭医を育成する。
- 2) 人間性豊かで生涯学習する医療人を育て、支援する。
- 3) 地域立脚型医学教育を推進する。
- 4) 地域包括プライマリケアの充実を図る。
- 5) 保健・医療・福祉が連携した統合的なチームケアを推進する。
- 6) 保健・医療・福祉各職種の育成段階から共通の価値観を育てる。
- 7) 一般市民の医療リテラシーの向上を促進する。
- 8) 地域医療支援研究を推進する。
- 9) 地域に最適な保健・医療・福祉・介護体系を提案する。
- 10) 健康で豊かな地域社会のための健康管理・教育体制の実践的な研究拠点となる。

〈行動計画〉

- 1) 日本家庭医療学会の認定するプログラムを後期研修医に提供し、良質な家庭医を育成するとともに、体系的な教育システムを充実させる。
- 2) 学内における全人的医療教育の柱となり、他の専門分野にない独自性を高める（心身医学、代替・補完医療、コミュニケーション学など）。
- 3) プライマリケア・リフレッシャーコース等の開催により、地域の医師、看護師等医療従事者の再教育、生涯学習を支援する。
- 4) 地域に密着したプライマリケア、家庭医療学および予防医学の教育・研究・研修の場を設定する。
- 5) 医学部学生に低学年より、地域医療、家庭医療や予防医学について十分な興味をもたせる。
- 6) 滋賀医科大学医療福祉教育研究センターを通して、地域保健・医療・福祉・介護に関わる

施設紹介

多職種のための研修会や講習会を設定し、多職種間の緊密な連携を図る。

- 7) 滋賀医科大学医療福祉教育研究センターにおいて、保健・医療・福祉各職種の育成段階から共通の価値観を育てる具体的な方略を検討する。
- 8) 一般市民と地域保健・医療・福祉・介護関連従事者が共に集い、高齢化社会における医療保健体制のあり方を議論する場を設定する。
- 9) 各種学会の学術集会やワークショップ等を通して、総合医・家庭医のあり方に関する調査・研究を行う。
- 10) 客員教授の所属機関であるミシガン大学医学部家庭医療学科やパリ・アメリカ病院との交流(研究者や研修医の派遣など)を活発化する。

〈展望〉

人口の高齢化に伴う要介護者の増加、生活習慣病の増加、疾病の多様化・複合化などを考えれば、へき地か都市部かを問わず、地域医療に求められる医師が、疾病の診療にとどまらず、家族や地域を視野に入れ、保健・福祉・介護あるいは行政にも明るい包括的な総合医（家庭医）であることは自明のことと思われまふ。従って、このような人材を育て、この領域の包括的な研究を行おうとする「家庭医療学講座」は現代社会において大いに貢献できると考えています。是非皆様のお力添えがいただければ大変ありがたいです。

なお、附属病院中央診療施設としての総合診療部の任務も併任し、これまで以上に発展させたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

施設紹介